

# オオセッカ

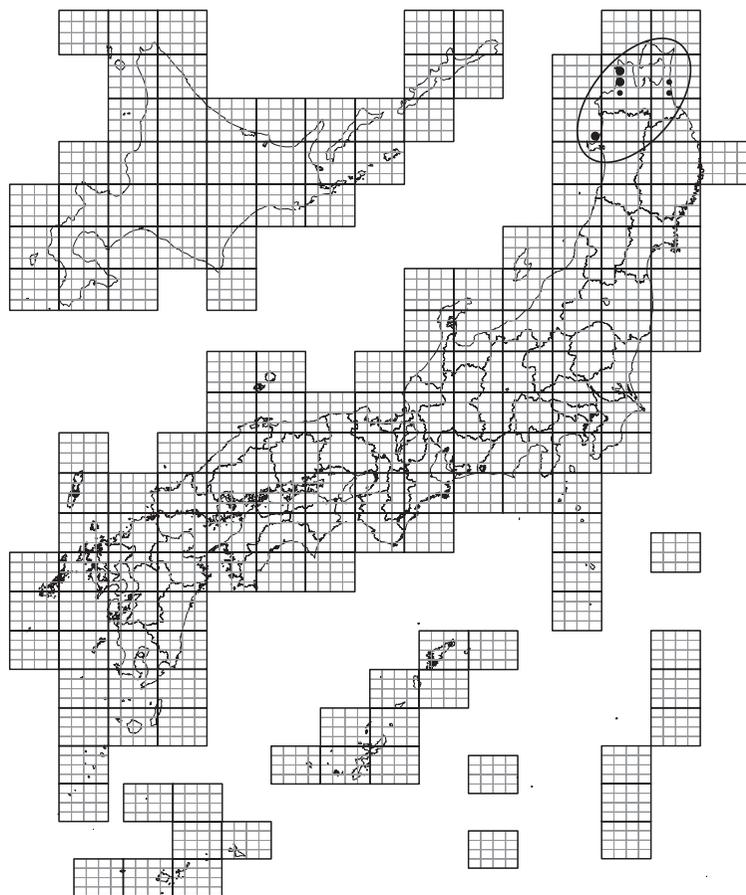
(分類) スズメ目ウグイス科 *Locustella pryeri*

(環境省RDB種) 絶滅危惧 B類

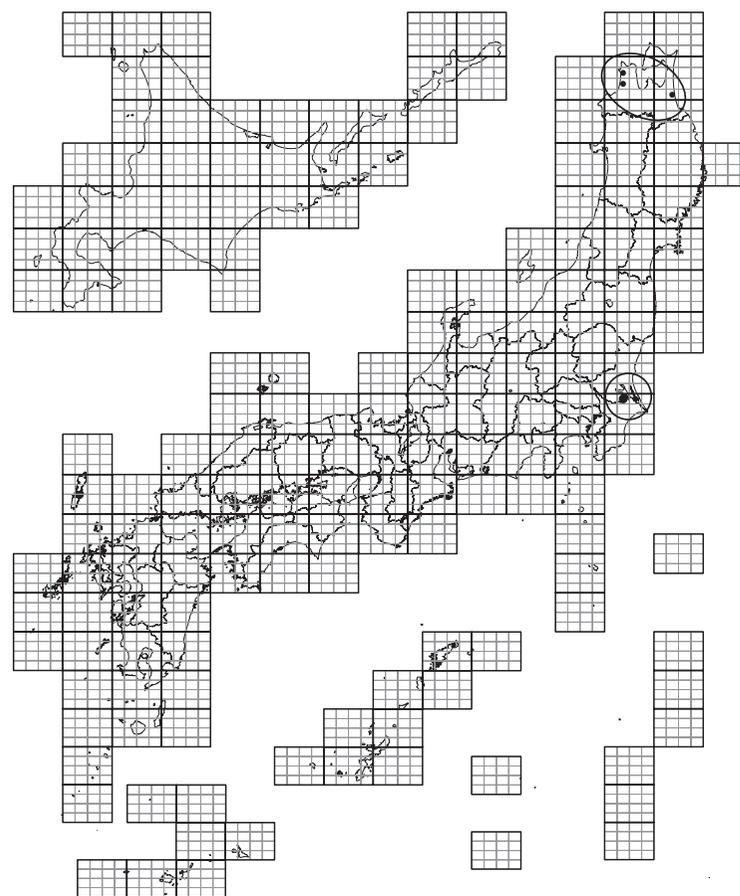
(分布) 関東から東北地方で局所的に繁殖。冬は西日本までの雪のないアシ原で広く記録がある。中国東北部と日本だけで繁殖する極東固有種。

(生態) アシとスゲなどの混生した湿生草原にすみ地面近くに営巣する。5～8月から3～6卵を12日前後抱卵し、12日前後で巣立つ。チョウ目の幼虫やバッタなどの昆虫をとる。日本全体の個体数は約1,000羽と推定されている。

1974年－1978年   メッシュ数   A = 3   B = 3   C = 0



1997年－2002年   メッシュ数   A = 1   B = 4   C = 0



# エゾセンニュウ

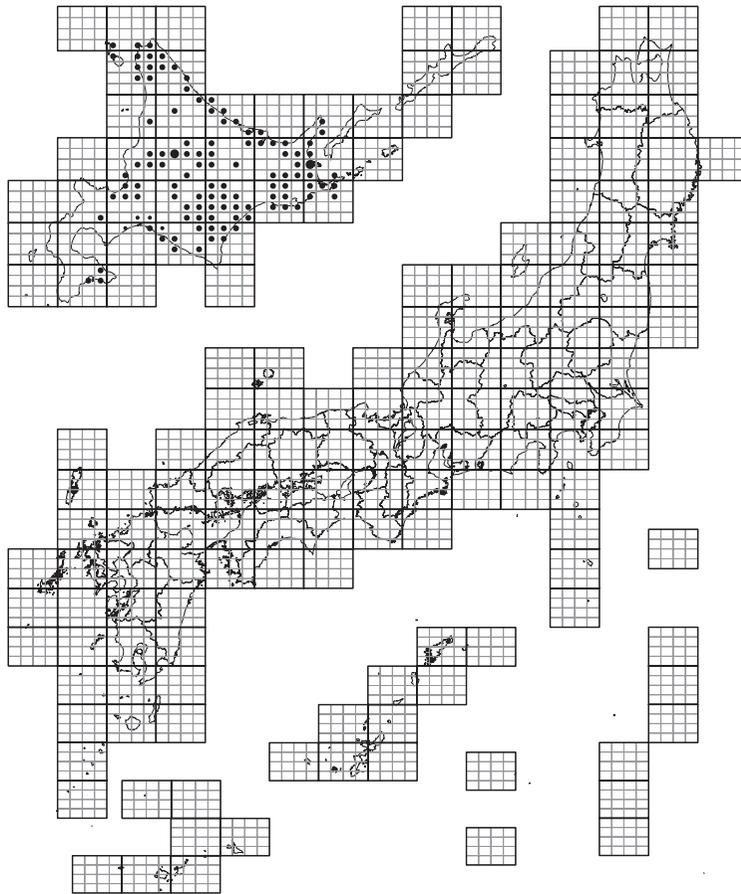
(分類) スズメ目ウグイス科 *Locustella fasciolata*

(環境省 RDB 種) -

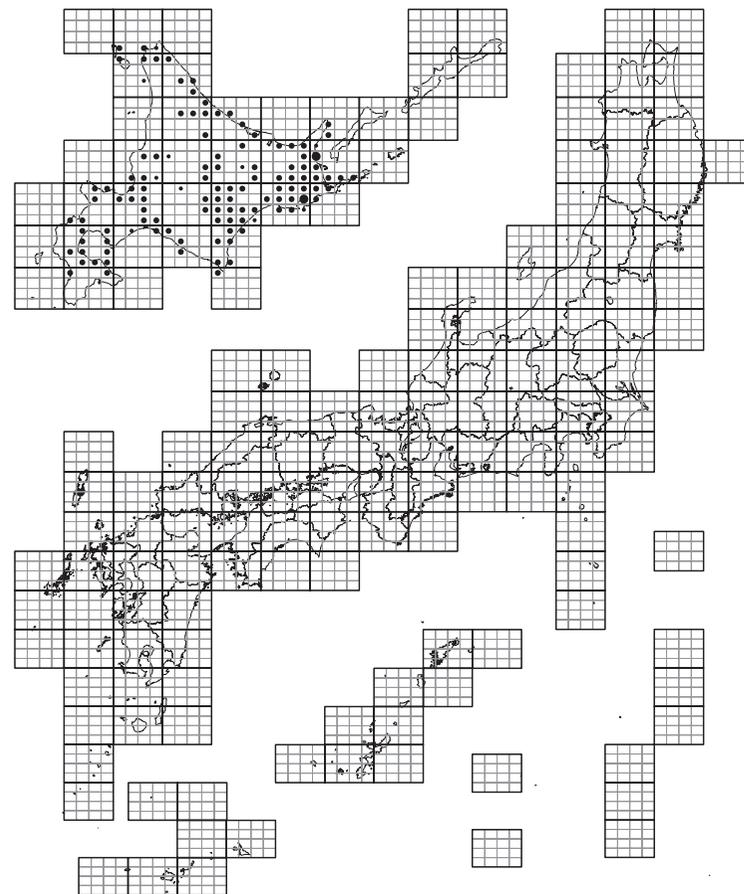
(分布) 北海道で夏鳥。ロシアのアムール川流域からサハリン南部で繁殖し、フィリピンなどで越冬。

(生態) 6～8月に下藪のある低木林に渡来し、低木に営巣する。3～5卵を雌が14日前後抱卵し、雌雄で育雛する。昆虫類を捕食する。

1974年－1978年    メッシュ数   A = 2   B = 107   C = 4



1997年－2002年    メッシュ数   A = 2   B = 106   C = 10



# シマセンニュウ

(分類) スズメ目ウグイス科 *Locustella ochotensis*

(環境省 RDB 種) -

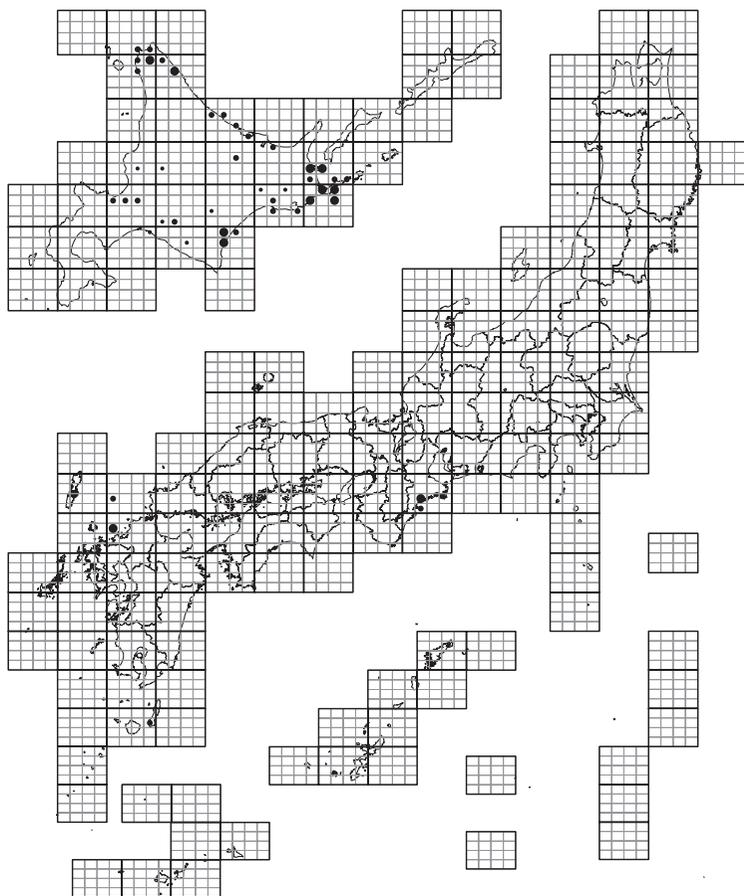
(分布) 北海道で夏鳥。ロシア極東のオホーツク海沿岸からカムチャツカで繁殖し、カリマンタンなどで越冬。

(生態) 6～8月に海岸沿いなどの草原に渡来し、地上近くに営巣する。2～6卵を雌が14日前後抱卵し、雌雄で14日前後育雛する。

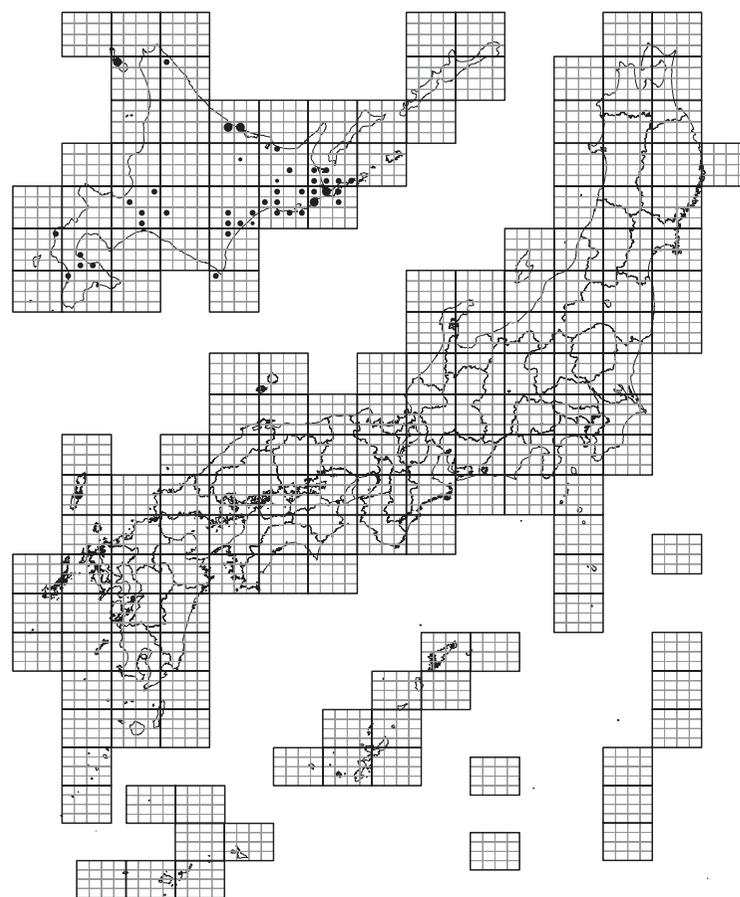
8月下旬には渡去する。昆虫類を捕食する。

(参考事項) 第2回調査時はウチャマセンニュウをシマセンニュウの亜種として分布図に含めているが、第6回調査では別種に分類している。ウチャマセンニュウについては次ページを参照のこと。

1974年－1978年    メッシュ数    A = 12    B = 25    C = 8



1997年－2002年    メッシュ数    A = 5    B = 35    C = 3



# ウチャマセンニュウ

(分類) スズメ目ウグイス科 *Locustella pleskei*

(環境省RDB種) 絶滅危惧 類

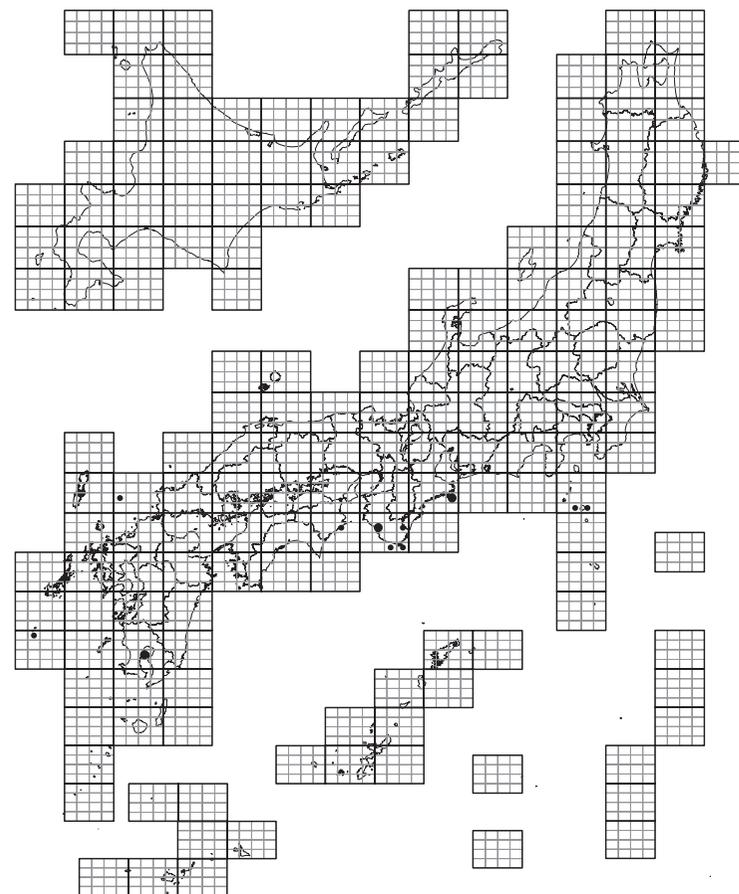
(分布) 紀伊半島と九州の近海の島嶼、伊豆諸島で局所的な夏鳥。朝鮮半島沿岸や沿海州でも繁殖し、中国東南部沿岸域などで越冬。

(生態) 海岸の草原から低木林で5～8月に営巢し、2～5卵を産む。生態の多くはシマセンニュウに類似。

(参考事項) 第2回調査時はウチャマセンニュウをシマセンニュウの亜種として分布図に含めているが、第6回調査では別種に分類している。シマヤマセンニュウについては前ページを参照のこと。

第2回調査ではシマセンニュウとして記録しているため、分布図不掲載。

1997年－2002年      メッシュ数   A = 3   B = 8   C = 0



# マキノセンニュウ

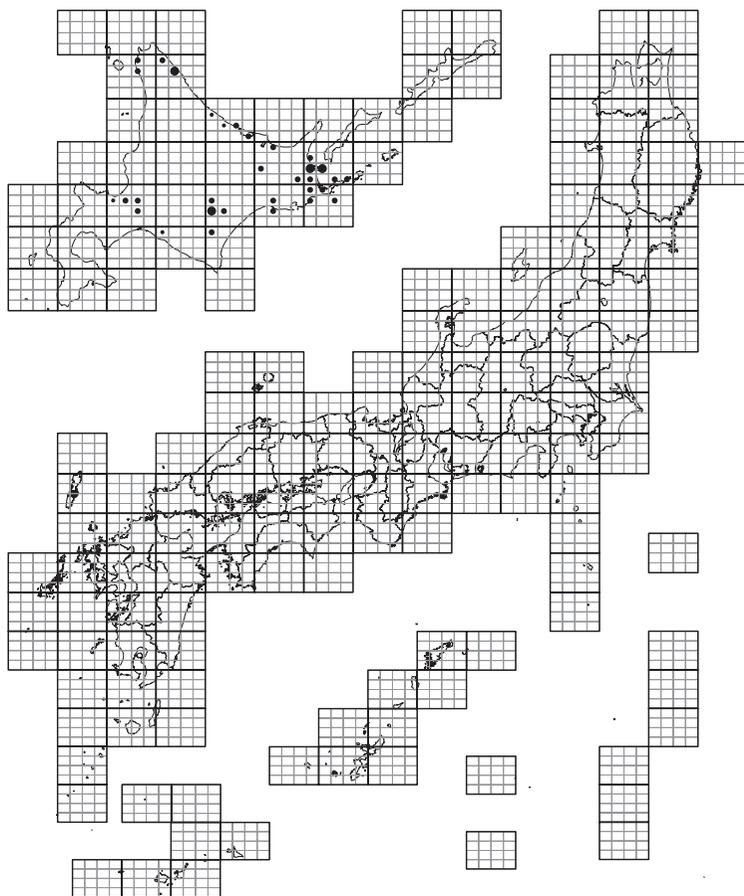
(分類) スズメ目ウグイス科 *Locustella lanceolata*

(環境省 RDB 種) -

(分布) 北海道で夏鳥。富士山や尾瀬でも繁殖記録がある。ロシア南部で広く繁殖し、東南アジアで越冬。

(生態) 低木のある湿生草原にすみ、草むらの地上近くに営巣する。3～5卵を産む。茂みの中で昆虫類や種子をとって食べる。

1974年－1978年    メッシュ数   A = 4   B = 24   C = 4



1997年－2002年    メッシュ数   A = 1   B = 22   C = 1

